

素材・製造

FBの鍵 染色加工

新ものづくり宣言

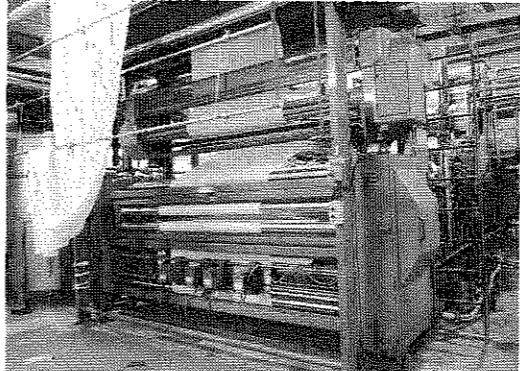
産地の枠を超え拡大
一見、履き古した風合いの加工ジーンズだが、生地と触ってみるとリアルなプリント「リー・ジャパン」とクルック・プレオカーニックコットンプログラム事務局が立ち上げたプロジェクト「リー・クルック」が今秋、商品を販売する。感性表現としてもユニークな「エゴジーンズ」だ。プリントにより、通常のジーンズ加工と比べ水使用量を10分の1以下に抑え、環境負荷の軽減を狙う。

要のインクジェットプリンターを担うのが平松産業だ。特に重要なのはスクリーン技術で、パーツごとに解体した本物のジーンズを高解像度の画像に取り込み、超微粒子インクによるプリントでジーンズの立体感を再現、企画開発には半年を要した。
同社は合繊織物で多様な染色加工をこなすが、中でも祖業のプリントとフィルムラミネート加工の技術に特徴を持つ。インクジェットは、07年

リー・クルックのプリントジーンズは10月の本格販売を前に初回だけで既に2万本分を受注、更に、もともとスクリーンプリントで得意だった洋傘やスキーウェア、カジュアル服、バッグ、水着など幅広いアイテムにも広がる。インクジェット機は現在5台まで増設し、生産はフル稼働の状況。来期は2、3台を増設、最終的には20、25台規模を視野に増強し、得意分野で磨きをかける。

得意分野に磨きをかけ

二ツターと協業
飯田織工は100年以上の歴史を持つニット専業の染色加工場。ニットの多様な染色加工をこなすが、中でも繊細な工程管理が要求される「レーヨン混」や「モダール混」などのシルケット加工が得意だ。しかし、取引先の海外移転が進み、紳士肌着の晒しなどが徐々に縮小、低価格志向なども



とされるニットの染色について、飯田織工は「国内に中国も、年内に中国人を立ち上げて技術指導を任せ、日本向けの新製品を開発する」と意気込みを語る。新製品は「高機能な素材を使い、高機能な加工を施す」というコンセプトで、顧客の要望に応えることが重要だ。固定客と取り組むことが重要で、固定客と取り組むことが重要だ。固定客と取り組むことが重要だ。

プリント、高機能などに特化

ことを重視する。設備は起毛、光沢、高堅牢度染色、減量、特殊ストレッチ、しわ、パイオ、各種プリント、オパール、斑染、超耐久吸水性、涼感、スキンケア、ピタミン、マイナスイオン、防花粉、付帯加工で難燃、撥水撥油、抗菌、抗菌防臭、耐久帯電防止、濃染、UV(紫外線)カット、防泥、保湿など特殊加工に対応する。
「世界に通用する商品を一つひとつ丁寧に作る」ことが重要で、固定客と取り組むことが重要だ。固定客と取り組むことが重要だ。固定客と取り組むことが重要だ。

佐藤繊維グループ

クリエーター色強め成長 糸、製品、OEM柱に

佐藤繊維グループ(山形)は、梳毛ニット糸、オリジナルブランドの製品、製品OEM(相手先ブランドによる生産)の各事業で増収を続けている。4年前に「トレンド」はあまり意識せず、デザイナー・クリエーター色を強めたプロダクトアウト型に転換したのがきっかけ(佐藤正樹社長)という。特に製品、製品OEMが成長し、梳毛と並ぶ柱になっている。

同社は多色の縞やファンシーヤーン、モヘアの細番手など個性豊かな糸を定評があるが、近年は「一層ごたわりを強め、他産地



羽織り物には紙繊維と多色糸を使用。ボトムスのポケットは糸の使用量が少ないため、一般にファンシーヤーンは使わない

に波及し、製品やOEMが伸び始めた。
製品は09年6月、別会社化したサトウ・エス・スクエア(東京)が企画、製造、販売する。売上高は約6億円、近年は年平均20%の増収で、10年5月期は更に伸びを見込む。主力ブランドは「デザイナー色」の強い「M&K YOKO」。世界観を伝えるため、単品の卸売の中心から、

トータルアイテムで展開、小売りを強化した。布帛とドッキングしたボトムやジャケット、雑貨を加え、昨年9月に大丸東京店、高島屋新宿店に初の直営店を開業。今月は横浜をこうに開いた。
ブランド再構築を進めており、来月は「ボア・デ・プロ・ニコ」と「m・b・y M&K YOKO」(エムドット)を刷新する。ボア・デ・プロ・ニコは単品を問屋へ販売していたが、専門店向けにトータルアイテムで売れる。エムドットはクリエーター色を弱め、キャリア向けに1着平均1万円前半から半ばで設定する。差別化を意識するセレクタショップが興味を示しているという。

サトウ・エス・スクエアは、初のブランド糸「MASAK I」を今年から販売。「手芸材料

細番リネンで高密度織物

林与来春夏 純正アイリッシュ使いも

麻織物製造の林与(滋賀県愛知郡、林与志雄社長)は11年春夏向けに細番のリネン糸を使

は、上海から博多経由、東京向きの海陸一貫の自社混載便(週2便)を今月中旬から開始した。

同社はこれまで上海から博多までの船便を扱っていた。東京までの海陸一貫便により、上海・東京間を最短3日間で運ぶ。上海出港が火、金曜の週2便で、火曜出港は木曜の午後、金曜出港は月曜午前東京に着く。

「アイリッシュリネン」と「高密度織物」の二つの企画を開発、提案する。
アイリッシュリネン企画は、04年の工場閉鎖まで170年

問、高級リネンを紡績していた北アイルランドの麻紡績ハードマン社で作られた糸を用いる。純正のアイリッシュリネンで、林与が30年ほど前にオーダーして丁寧に保管していた糸だ。もともと手織り用として生産された糸で、ソフトな風合い、光沢感に優れ、しなやかで、独特のアンティーク感を持っている。

同社は140番、100番、80番などの細番アイリッシュリネン100%使用で無地だけでなく、先染めやジャカードなども提案する。極めて細い高級糸で、特殊な糊を糸に固着させて織り上げるが、シャトル織機で

1時間約5層に2層重ねの織物、ジョーシなど代表リネンへの期待が100%のリネン、提案するが、基本で生産する。
高密度織物では、ネン糸を使い、コシを通常の1.5倍し、ソフトだがハ



1時間約5層に2層重ねの織物、ジョーシなど代表リネンへの期待が100%のリネン、提案するが、基本で生産する。

ハリ・コシ、多彩に

渾定名古屋来春夏 上質なりネン

渾定名古屋は11年春夏向け「オーロラ」展で、ハリ感やコシを表現する素材を重点にした。肉感のあるジョーセットやセルロー

への輸出は少しずつ伸び、海外売上高は10%弱。
製品OEMの円。自社工場は占めるため、山形など協力ニツター中心だ。

サポート ビジネス

印で物流インフラ事業

双日

双日は、インド最大手の民間物流企業アルシアと共同で、ムンバイ近郊のマハラシュトラ州とデリー近郊のウタルプラデシュ州で、FTWZ(物流加工保税)と鉄道輸送を合わせた複

FTWZは、輸出入手続きの簡素化、迅速化、貨物の長期保税保管、税制優遇など制度面で優遇を与える経済特区。加えて、最新鉄道輸送技術を活用した物流インフラを運営し、企業のインド市場への参入を促す。インドに投資を検討する外資企業が相次いでいるが、物流面

での整備が課題となっている。中長期的に、ナグプール、コルカタ、チェンナイにも同様のFTWZを運営し、インドのは全域で総合物流インフラ群を構築する考えだ。
上海・東京間の自社混載便開始
イーストライス トランスポート
フオワードのイーストライス トランスポート(大阪市)



アンティーク調の質感が魅力

「麻本来の織り上げるが、シャトル織機で